

令和 2 (2020)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	ヘルペスウイルスの増殖・病態発現に関する統合的分子基盤
研究代表者	川口 寧 (東京大学・医科学研究所・教授) ※令和 2 (2020)年 9 月末現在
研究期間	令和 2 (2020)年度～令和 6 (2024)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】</p> <p>単純ヘルペス感染症は、多数のアンメット・メデイカルニーズがある医学上重要な感染症である。本ウイルスの細胞内への侵入、遺伝子発現、細胞内輸送、免疫応答回避機構など複雑な過程を経て発症に至る。本研究は、これらの統合的な全体像を解析することで、ヘルペスウイルスの感染症の全貌を明らかにし、新規治療への応用に結びつけようとするものである。</p> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】</p> <p>研究代表者らは、これまで各国の研究者によって個別に研究が進められてきたヘルペスウイルス感染の各ステップを解析する高い能力を有しているものと判断されることから、本研究が目指す成果が期待できる。また、単にウイルス感染だけでなく、他のウイルスへの応用も視野に入れた細胞生物学的にも非常に重要な知見を含んだ研究である。</p>